

博物館だより

No. 3

企画展 「これが縄文土器だ」

昭和63年7月23日(土)～8月28日(日)



人面把手 岡谷市海戸遺跡出土
(市立岡谷美術考古館蔵)



深鉢 岡谷市梨久保遺跡出土
(市立岡谷美術考古館蔵)

今から約4～5,000年前の縄文時代の中ごろに、中部高地では装飾華麗な土器が盛んに作られました。そのなかには、人や獣の顔面や蛇身をモチーフにした様々な飾りや把手をつけたものもあります。縄文時代の人々は、こうした土器を何のために作ったのでしょうか。土器にあらわされた像や文様は、祭りの神々や当時の人々が意識していた動物の霊を表現したものなのでしょうか。

今回の展示では、こうした縄文時代中期の土器を通して、当時の人々の信仰の一端に触れることができるものと思います。

縄文土器の名称と文様

縄文土器の名称は、明治10（1877）年に東京の大森貝塚を発見したE. S. モースが表現したCord marked pottery（縄目文様のある土器）を語源としています。

縄文土器とひとくちに言っても、その文様、形態は千差万別です。その命名の語源となった縄目文様も、全ての縄文土器につけられているわけではなく、縄目文様は、縄文時代の全期間をとおして使われた文様ではありますが、それ以外にもいろいろな文様があります。

文様をつけるには道具（施文具）が必要です。施文具には骨や竹、木、自然の植物繊維をより合わせたものがあります。縄文は長さ4～5cmの細くなった縄を土器面に回転させてつけます。細い棒に山形や楕円形、格子目の刻みを入れた施文具を回転させてつける回転押型文という文様もあります。ほかに、細い筆の軸のような竹をそのまま用いたり、半分に割ったりして円形や半円形平行線を描いた竹管文、貝殻を用いて粗いすじをつけた条痕文、アナダラ属の貝殻腹縁を用いた貝殻文などがありますがそれらは平面的な文様です。また粘土紐やボタン状の粘土を貼り付けて立体的な表現をした文様もあります。赤い色で文様を描いたり、まったく文様のない無文土器もあります。

縄文時代中期の中部高地

縄文時代中期になると全国的に遺跡数が増加しますが、特に長野県を中心とした中部高地ではその増加が顕著であり、中期縄文文化の発展の中で、長野県地方が一つの核をなしていることがわかります。

遺跡数の増加とともに、一集落における規模の大きさにも目を見張るものがあります。数十軒から百軒を越えるような大集落が各地にみられるようになります。もちろんある時期を限ってみれば集落の規模は、数軒から十数軒だったことは、住居跡の切り合い関係、あるいは、建て替えの痕跡などから明らかで、継続的な生活によって大規模な集落となったものです。こうしたことは、縄文時代中期を通じて、中部高地一帯が人々の安定した生活に適した環境となったことを物語っています。それとともに、精神文化の高揚もみられます。

中部高地の縄文土器

縄文時代中期の土器は、器種の分化とともに、その文様の豪華さ、華麗さにおいて縄文土器の最盛期を迎えたといえるでしょう。縄文時代前期の終わりころから始まった器種の分化は、中期にはいると大量の煮炊き用の深鉢と、少量の浅鉢の組み合わせが確立するとともに、つぼ、かめ、壺、甕、双口土器、有孔鏝付土器、香炉形土器、吊手土器など種々の器形が生まれてきます。

前期からみられた深鉢の口縁部の発達は、立体的な装飾へと変化し、顔面把手、獣面把手がついたものもみられるようになります。

中部高地の縄文時代中期は、今から約4～5,000年前、梨久保式という土器型式の成立で始まります。以降、各地における発掘調査の成果をもとに、次のように編年されています（井戸尻編年）。

梨久保期

九兵衛尾根Ⅰ期・Ⅱ期

猪沢期

新道期

藤内Ⅰ期・Ⅱ期

井戸尻Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期

曾利Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期・Ⅴ期

本展出陳物の出土遺跡

■梨久保（なしくぼ）遺跡 岡谷市長地中村

梨久保遺跡は、竹管文の装飾、籠を思わせる文様をもつ土器で、縄文時代中期初頭の「梨久保式土器」の標識遺跡となっています。数次の発掘調査によって縄文時代全般にわたる集落と墓域の存在が確認されています。

■海戸（かいど）遺跡 岡谷市天竜町

諏訪湖岸に所在し、諏訪湖面との比高は4～10mで、水辺に接した低い台地上の遺跡です。昭和41・42年の調査で、縄文時代前期・中期、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居跡が発見されています。縄文時代からの水陸両方の多様な生業を可能としたものでしょう。

■扇平（おんびら）遺跡 岡谷市長地横川

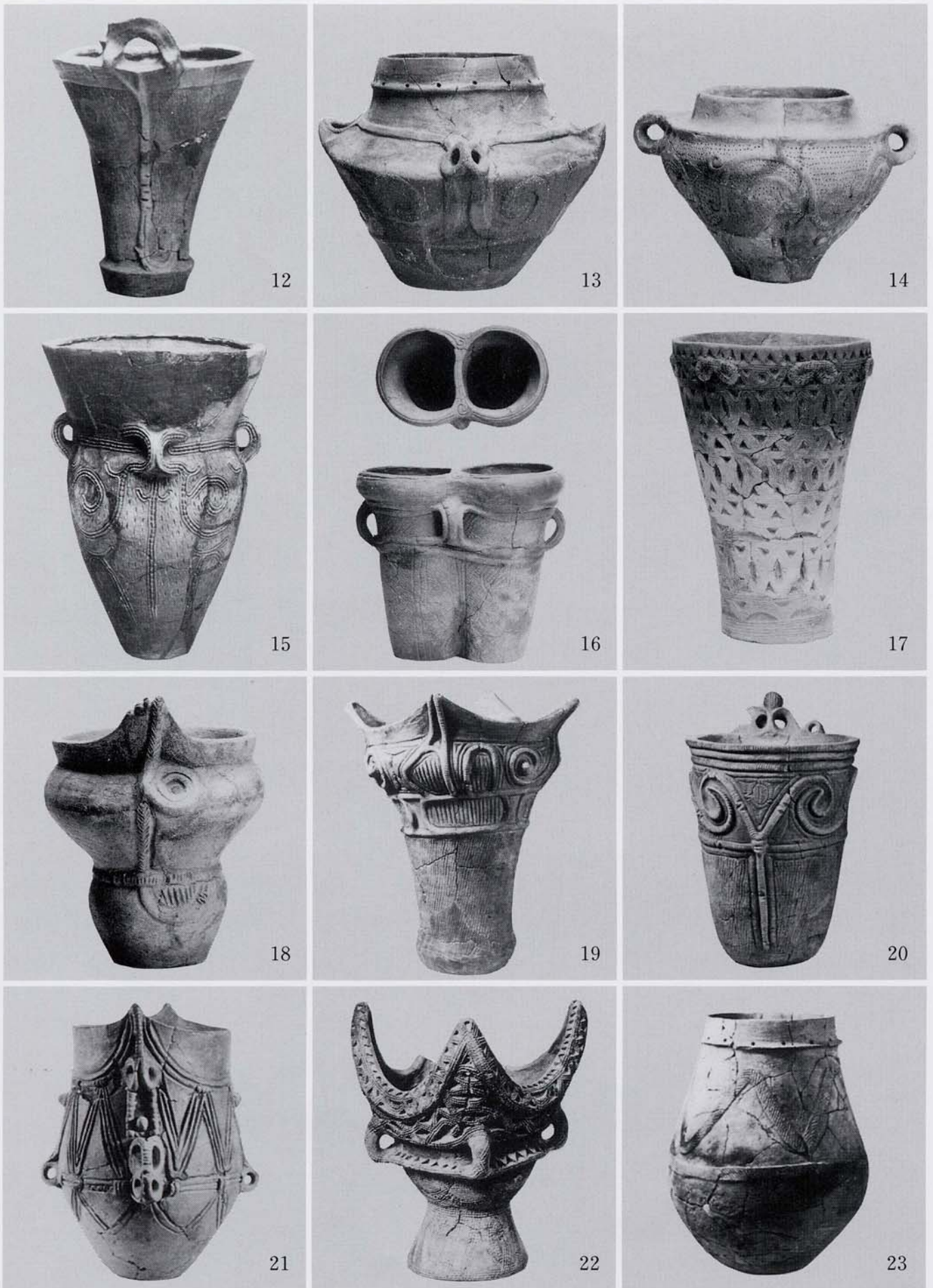
扇平遺跡は、縄文時代前期から中期初頭にかけての集落跡。

■平出（ひらいで）遺跡 塩尻市大字宗賀

塩尻市の西南部に所在し、奈良井川の形成した扇状地上に立地する縄文時代から平安時代に至る



1～3 岡谷市梨久保遺跡出土， 4～5 岡谷市扇平遺跡出土， 6～7・9 塩尻市平出遺跡出土，
 8・10・11 塩尻市俎原遺跡出土
 (1～5 市立岡谷美術考古館蔵， 6～11 塩尻市立平出遺跡考古博物館蔵)



12~13 茅野市茅野和田遺跡出土, 14 茅野市与助尾根遺跡出土, 15 茅野市中原遺跡出土,
 16 茅野市一ノ瀬遺跡出土, 17 茅野市高風呂遺跡出土, 18 茅野市下ノ原遺跡出土,
 19~23 諏訪市荒神山遺跡出土
 (12~18 茅野市尖石考古館蔵, 19~23 長野県教育委員会蔵・諏訪市考古資料館保管)

大集落跡です。縄文時代中期の竪穴住居跡62軒を中心に、敷石住居跡1、古墳時代から平安時代の竪穴住居・倉庫跡などが発見されています。昭和27年に国指定史跡となりました。

■俎原（まないたばら）遺跡 塩尻市大字片丘
塩尻市の東方に南北に延びる丘陵上に位置する縄文時代、平安時代の複合遺跡で、縄文時代中期の竪穴住居跡147軒、小竪穴169のほか、平安時代の竪穴住居跡が検出されています。

■茅野和田（ちのわだ）遺跡 茅野市玉川
八ヶ岳山麓中に舌状に延びる丘陵の台地の山裾に近い一帯を占めています。縄文時代中期を中心として、前期・後期・晩期、弥生時代、平安時代の住居跡や特殊遺構が検出されています。

■与助尾根（よすけおね）遺跡 茅野市豊平
尖石台地の北尾根に位置し、南の尾根に与助尾根南遺跡、更にその南の尾根上に尖石遺跡があります。縄文時代中期の竪穴住居跡28、石囲炉跡1、小竪穴4が発見されています。

■下ノ原（したのはら）遺跡 茅野市

■一ノ瀬（いちのせ）遺跡 茅野市

■高風呂（たかふろ）遺跡 茅野市

■中原（なかはら）遺跡 茅野市

■長峰（ながみね）遺跡 茅野市

■荒神山（こうじんやま）遺跡 諏訪市湖南大熊
諏訪盆地南西部の小扇状地扇頂部に立地し、諏訪盆地における縄文時代中期の代表的な遺跡です。確認された縄文時代中期の住居跡は82軒を数え、馬蹄型の集落跡と推定されています。

■千鹿頭社（ちがとうしゃ）遺跡 諏訪市
縄文時代から平安時代に及ぶ扇状地上の集落遺跡です。縄文時代の住居跡6、集石遺構、古墳時代の住居跡などが検出されています。

参考文献

『長野県史』考古資料編（1983）

『遺跡と遺物』信濃毎日新聞（1982）

謝 辞

本企画展開催にあたり次の方々にご協力をいただきました。記して感謝の意を表する次第です。
市立岡谷美術考古館 塩尻市立平出遺跡考古博物館 諏訪市考古資料館 茅野市尖石考古館 長野県教育委員会 会田進 小林康男 高見俊樹 樋口昇一 守矢昌文 渡辺誠（敬称略）

博物館日誌（抄）

(62・11・12～63・3・31)

- 11.12 開館記念式典
11.13 一般公開
～12.6 開館記念特別展 「一宮の名宝（I）
一真清田神社と妙興寺一」
15 講演会「一宮の名宝について」
講師 京都国立博物館学芸課長
金沢 弘氏
23 島文楽公演
12.19 企画展「陶磁のこま犬一尾張の在銘資料
～1.31 を中心として一」
1.10 講演会「陶磁のこま犬」
講師 愛知県陶磁資料館学芸員
仲野 泰裕氏
1.23 映画会
3.5～ 企画展「パレススタイルの美」（～4.3）
3.13 講演会「赤一紅への憧憬一」
講師 奈良大学教授 水野 正好氏
3.20 講演会「古墳前夜」
講師 愛知県埋蔵文化財センター
赤塚 次郎氏

博物館入館状況

月	開館日数	一般	高・大生	小・中生	計
11	15	5,253	138	1,221	6,612
12	24	2,899	92	1,012	4,003
1	23	2,096	69	493	2,658
2	23	1,663	54	759	2,476
3	27	2,389	150	992	3,531
計	112	14,300	503	4,477	19,280

特別展、企画展開催期間中の入館者数

- ・開館記念特別展「一宮の名宝(I)一真清田神社と妙興寺一」
(11月13日～12月6日) 8,169人
- ・企画展「陶磁のこま犬一尾張の在銘資料を中心として一」
(12月19日～1月31日) 3,932人
- ・企画展「パレススタイルの美」
(3月5日～4月3日) 3,806人

団体観覧一覧

(昭和62年11月～63年3月 敬称略)

〔11月〕戸塚第4つくし子供会、一宮友の会、西成東小PTA、大和シルバー教養講座、さつき会、京都清風会、於保上次子供会、公友会、萩原シルバー教養講座、尾西北地区県立学校図書館研究会、三重県大安町湍川自治会

〔12月〕もえぎ会、萩原小教職員、石山町婦人会、知多市民俗資料館教室生、奥町衛生委員会、尾西市三条地区母親クラブ、丹陽西小教職員、千秋小教職員、向山老人クラブ、新日本建築家協会、西成東小教職員、大和東小3・4・5年生、葉栗公民館、ボーイスカウト一宮第8団、向山小6年生、向山小教職員

〔1月〕名古屋鉄道、殿町どんぐり子供会、桜井たず子社中、富士小教職員、NHK文化センター、向山公民館、松島町婦人会、一宮市民生委員協議会

〔2月〕大志小教職員、江南市文化団体、春明張渕子供会、宝江東和会老人クラブ、葉栗小6年生、北方老人クラブ連合会、真澄二六会、向山小3年生、大和東小6年生、萩原本町子供会、展示研究会

〔3月〕丹陽連区婦人会、一宮母子寡婦福祉会、中島南方子供会、奥小3年生、丹陽西小3・4年生、殿町第一クラブ会、一宮中ライオンズクラブ、名古屋鉄道労働組合、日本建築協会東海支部、南高井子供会、一宮市教委歴史勉強室・市民文化財めぐり、小牧市教委文化財めぐり、岩田食品(株)、神山連区婦人部、杉本美術館友の会、尾西三中郷土クラブ

利 用 案 内

開館時間

午前9:30～午後5:00
(入館は午後4:30まで)

常設観覧料

区分	個人	20人以上の団体
一般	200円	160円
高・大	100円	80円
小・中	50円	40円

(1人1回)

休館日

- 毎週月曜日
(ただし、休日にあたる場合は翌日を休館)
- 休日の翌日
(ただし、日曜日又は休日の場合は開館)
- 年末・年始
(12月28日→1月4日)

名鉄電車「妙興寺駅」下車徒歩5分

催し物のご案内

◎講演会

と き：昭和63年8月7日(日)午後1時30分から
と ころ：講座室
テ ー マ：「縄文の王国」

—信州の縄文中期土器をめぐって—

講 師：前長野県埋蔵文化財センター調査部長
樋口 昇一 氏

◎講演会

と き：昭和63年8月21日(日)午後1時30分から
と ころ：講座室
テ ー マ：「縄文土器と食べ物」

講 師：名古屋大学助教授 渡辺 誠 氏

◎映画会

と き：昭和63年7月31日(日)午後1時30分・3時
と ころ：講座室
上映映画：「縄文時代」・「市政ニュース」

これからの展覧会のご案内

◎「有隣舎をめぐる人々」

会 期：昭和63年9月10日(土)～10月~~16~~¹⁰日(日)
と ころ：特別展示室

内 容：大字丹羽の地で、江戸時代中期に始まり明治末期まで続いた、漢学塾有隣舎をめぐる詩人森春涛をはじめとする人々の事蹟を紹介します。

◎特別展「一宮の名宝(Ⅱ)」

会 期：昭和63年10月22日(土)～11月23日(木)
と ころ：特別展示室

内 容：開館記念特別展に引続き、妙興寺所蔵の重要文化財絹本着色十六羅漢像をはじめとする名宝を展覧します。

◎特別展記念講演会

と き：昭和63年11月6日(日)
と ころ：講座室
テ ー マ：十六羅漢像をめぐって(仮題)
講 師：文化庁文化財調査官 有賀 祥隆 氏

一宮市博物館だより 第3号

昭和63年7月23日

編集・発行 一宮市博物館

〒491 一宮市大和町妙興寺2390番地

Tel 0586-46-3215